

2011年 四季 折々

Monthly Mail 四季 Mutsu & 思いつくまま

From Kobe 神戸で 思いつくまま <10> 2011 もくじ

From Kobe 2011

1. 2011年 1月 Kobe 便り 2011年 年の始に fkobe1101.pdf
2. 2011年 3月 Kobe 便り 元気出して行こう 声かけあってゆこう fkobe1103.pdf
3. 2011年 4月 Kobe 便り 未曾有の大災害 東日本大震災 fkobe1104.pdf
メディアの報道姿勢に大きな差 毎度ながら TV の報道姿勢に疑問
4. 2011年 5月 Kobe 便り 共に元気出して 声かけあって fkobe1105.pdf
5. 2011年 6月 Kobe 便り 放射能と向き合う 朝日新聞の特集記事図面要約 fkobe1106.pdf
放射能被曝と健康 朝日新聞の特集記事より
6. 2011年 8月 Kobe 便り 夏に多い脱水症・熱中症からの脳梗塞にご用心 fkobe1108.pdf
脳卒中は猛暑の夏場にも多いことご承知でしょうか
朝日新聞の記事より
7. 2011年 9月 Kobe 便り 実りの秋が もう そこまで、 fkobe1109.pdf
この 暑い夏 ふと頭をよぎったこと
(1) 鉄の歴史に 今の生き方を考える
「鉄学 137 億年の宇宙誌」を読み返してみても 頭によぎったことを書きとめました。
(2) 京都 大文字の送り火騒動 に見た日本の情報社会のほころび
8. 2011年 10月 Kobe 便り 明石たこ フェリーがなくなって1年 fkobe1110.pdf
原付バイクが渡れぬ明石海峡 淡路島は原付バイクの孤島に
原付の道がとざされたまま これも弱者切り捨てか……
9. 2011年 12月 Kobe 便り 一年を振り返って 今出来ることを精一杯 fkobe1112.pdf



「希望の光

負けないで 忘れないで
暖かい希望の輪がつながっていることを
今できることを 精一杯 声かけあい 支えあって 」

「星とたんぽぽ」 金子みすず
青いお空のそふかく、 海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんでる、 星のお星はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、 見えぬけれどもあるんだよ。

ちってすがれたたんぽぽの、 かわらのすきにだアまって、
春のくるまでかくれてる、 つよいその根はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、 見えぬけれどもあるんだよ。



「生きてりゃいいさ」

詞・曲：河島英五

君が悲しみに 心を閉ざした時 思い出して欲しい歌がある
人を信じれず 眠れない夜にも きっと忘れないで欲しい
生きてりゃいいさ 生きてりゃいいさ そうさ 生きてりゃいいのさ
喜びも悲しみも 立ち止まりはしない めぐり巡って行くのさ
手のひらを合わせよう ほら温もりが 君の胸に届くだろう

一文無しで 街をうろついた 野良犬と呼ばれた若い日にも
心の中は 夢で埋まっていた やけどするくらい熱い想いと
生きてりゃいいさ 生きてりゃいいさ そうさ 生きてりゃいいのさ
喜びも悲しみも 立ち止まりはしない めぐり巡って行くのさ
恋を無くした 一人ぼっちの君を そっと見守る人がいるよ

君にありがとう とてもありがとう もう逢えない人に ありがとう
まだ見ぬ人にありがとう 今日まで私を ささえた情熱に ありがとう
生きてりゃいいさ 生きてりゃいいさ そうさ 生きてりゃいいのさ
喜びも悲しみも 立ち止まりはしない めぐり巡って行くのさ
手のひらを合わせよう ほら温もりが 君の胸に届くだろう

「あの高嶺 鬼すむ誇り」

その瀬音 久遠の賛歌
この大地 燃えたついのち

ここは 北上 」

北上市市民憲章より



変えられるものを変える勇氣と
変えられないものを受け容れる心の静けさと
両者を見分ける叡智を

「勇氣」・「冷静」・「知恵」 ニーバーの祈りより

元氣出して 声かけあって

from Kobe より



【 From Kobe 2011.1月 】 「2011 年 年のはじめに」



新しい命 孫誕生 2010.11月 長男に赤ちゃん
この子たちの成長が また新しい生きがいです

本年が穏やかで 平和な年でありますよう 元気に明るく集えるよう願っています
本年もよろしくお願いします



鉄の故郷： 淡路島五斗長垣内遺跡

鉄を求めて連合した卑弥呼の邪馬台国そして倭王権

その前夜 1～2 世紀の Iron Road・和鉄の道

近畿に鉄の時代の幕開けを告げる弥生後期最大級の鍛冶工房村
が淡路島 播磨灘を見下ろす丘陵地にありました

好奇心とフィールドに出かける行動力だけは持ち続けよう

「なんでも 見てみよう 聞いてみよう やってみよう」と。

そんな 今年がはじまりました。

勝手気ままな風来坊 まだまだ「鉄」そして「自然」「環境」「人の営み」には興味深々。

ともに生きる感激の喜びも

今年一年が平和で明るい未来が開ける年になってもらいたい。

「生きとし生けるもの みな兄弟 とともに生きる」「縄文帰り」

この言葉を忘れず 元気に明るく 笑顔で集えたら と思っています。

ことしもよろしくお願いします。

2011.1月 Mutsu Nakanishi

その眼は依然として「ハード」に向いているように見える。

- 不景気の乗り切り策として 高価格が転嫁できる商品の高機能・デジタル化 TVは3D だという
- 国際競争力の対抗措置 一番は効率化・人員の削減だという

なぜか むなしく 自分にはピンとこない。 いまだに「箱もの」を追いつける視線が垣間見えるのです。

技術・機械・仕組みでは人の心・やすらぎは 買えないえない

会社にいるとき ビジネスの三つのチェックポイントとして「人・物(工場設備)・金」とよく言われたが、私はそれにいつも「運用(知恵)」を加えていた。要するに「ハード」と「ソフト」である。

パイの小さく社会蓄積の小さい発展途上国がいうのならまだしも 先進国の方策として 「ハード」のみを武器にして立ち向かうのはそれこそ身勝手というもの。 かつての高度成長期そして発展途上国の論理を進めるというのか…

世界が核開発競争に明け暮れ、強引に大国主義の枠組みの中で 揺れ動いたかつての日本の姿が目に見える。

また、中国もすごいなあ・・・と。

今 巷には幾人もの「タイガーマスク」の出現が伝えられている。

人生の盛りを過ぎた我々には 情情的には大いに共感できる。

不景気で厳しいこの時代だからこそこのまなざしがほしいと思う。 若者にこれを求めるのは愚なのだろうか・・・

でも 阪神大震災に襲われた16年前 神戸にあったまなざしである。

そろそろ 日本の方角を切り替える潮時 誰がこの道をきりひらいてくれるだろうか・・・

「誰も当てにはならぬ現実の中 自分の身の置き所が心配な今日この頃ではある。

ぶつぶつ言っていないで もっと生産的なことに挑戦せよ」と仲間が激励してくれる。

また、先頭に立って今も奮闘中の仲間もいる。 でも もう 人を巻き込む力なし。

ひとつひとつ コツコツと自分のできることをやろうと 「なんでも 見てみよう きいてみよう やってみよう」

好奇心とフィールドに出かける行動力だけは持ち続けようと。

そんな 今年がはじまりました。

勝手気ままな風来坊 まだまだ「鉄」そして「自然」「環境」「人の営み」には興味深々。

ともに生きる感激の喜びも

今年一年が平和で明るい未来が開ける年になってもらいたい。

「生きとし生けるもの みな兄弟 とともに生きる」「縄文帰り」

この言葉を忘れず 元気に明るく 笑顔で集えたら と思っています。

ことしもよろしく願います。

2011 年 1 月 神戸より Muysu Nakanishi

2011. 1. 17. 阪神淡路大震災から今年で16年 「共に生きる喜び」をみつめたい



1995. 1. 17. 阪神淡路大震災 神戸の記憶

今年も光の輪の中で多くの笑顔にであえました

1995 年 1 月 大地震に見舞われた神戸 みんなが輪になって助け合って

その 12 月 暗闇の中にぱっとルミナリエの明るい灯がついて

互いの笑顔を見て喜んだ その感動は今も忘れない

年が経つとそのルーツが忘れられ、ひとつのショーになりがちですが、

若い人たちで震災の記憶を 受け継いでいこうとの流れがあるのもうれしい

2010. 12. 11. by Mutsu Nakanishi

■ 感激と元気をありがとう

ラグビー神戸製鋼スティーラース 元日本代表 大畑大介選手(35歳)がついに引退



直接体をぶつけ合いながら、いつもすがすがしいスポーツ

それがラグビー。私の仲間の一人も もう70近いのに「赤パンツ」でラグビー選手の現役。なんともうらやましい。気持ちにはやるのですが、もっぱらスタンド観戦で一緒になって楽しんでいる。

そんなラグビーの元日本代表の神戸製鋼スティーラースの大畑大介選手(35歳)が1月9日 トップリーグ最終戦豊田自動織機/神戸製鋼戦を最後についに引退した。

日本代表キャップ58は歴代3位。テストマッチ通算69トライは世界最多記録の輝かしい記録を持つ快足とパワーを兼ね備えたウイングである。快足を飛ばして密集の中を走り抜けてゆく姿に多くの人たちが魅了された。

ここ数年は怪我に泣かされ、もう限界と言われ続けながら、若い選手たちの中を倒されても倒されても、ライン突破を狙い、また、後ろからモール・ラックの密集に飛び込んでゆく。

この若者に負けぬ姿が好きで、チャンスでは何度となく視線でその姿を追い、執念のトライには立ち上がって喜んだ。最終戦も けがで最後までグラウンドに立てなかったが、若い選手たちが相手のラインを突破してトライを重ねた。本当にご苦労さん いつも 感激と元気をありがとう

あとは大畑に続く若い選手を育ててほしい。

彼の引退で神戸製鋼もかわるだろうといわれるが、

彼の凄いプレーが若い人たちによって 継承されてゆくことを期待する。

ここでも 今一時代が変わろうとしている。

2011.1.9. 神戸 トップリーグ最終戦 神戸/豊田自動織機戦の後で

By Mutsu Nakanishi

From Kobe 3月 元気出してゆこう 声かけあってゆこう

元気出してゆこう

歌手:河島英五
作詞:河島英五
作曲:河島英五

元気出してゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう

元気出してゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう

元気出してゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう

世の中の人は何とでも
何とでも言うが良い
我がする事は我が想いは 我のみぞ知る
武士は喰わねど高楊枝 心は五月晴れ
こせこせするな くよくよするな
青空に鯉のぼり

志が少年を
一人前の男にする
志を持ち続ける事で 男は少年に帰る
忍ぶ恋路に花が咲く 頑張るってゆこう
めめめするな うじうじするな
夜空に「玉屋」

元気出してゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう
元気出してゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう



2011 年 2. 19. 花園での ラグビー—全日本選手権 準決勝スティールーズ/サントリー戦で 今シーズン関西での試合が全部終了した。寒い時期 いつも 元気をもらうラグビー観戦。せっせと花園へ通い。目の前でぶつかり合う闘志むき出しの戦い。それでいて 大男たちがレフリーの笛に文句ひとつ言わず従い、また プレーを再開する姿を見るのも好き。

今年一番の収穫は接戦の緊迫した中でドロップゴールが目の前で決まったこと。しかも 肉弾戦のさなかでのキックである。もう 思わず眼をこすりました。びっくり。アメラグのタイム終了3秒前劇的な逆転フィールドゴールに相当にする。この瞬間もそうですが、見る方に必死で デジカメのシャッター忘れていました。せめて一回だけでも コールにも飛び込む瞬間撮りたいと思ったのですが、これもアウト。目の前で何回もその瞬間見たのですが・・・

元気をもらって 楽しんだシーズンも終わり。

また、来シーズンです。

元気出してゆこう こえかけあって ゆこう





元気だしてゆこう

歌手:河島英五
作詞:河島英五
作曲:河島英五

元気だしてゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう

元気だしてゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう

元気だしてゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう

世の中の人は何とでも
何とでも言うがよい
我がする事は我が想いは 我のみぞ知る
武士は喰わねど高楊枝 心は五月晴れ
こせこせするな くよくよするな
夜空に鯉のぼり

志が少年を
一人前の男にする
志を持ち続ける事で 男は少年に帰る
忍ぶ必路に花が咲く 頑張ってゆこう
めそめそするな うしろするな
夜空に「玉屋」

元気だしてゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう
元気だしてゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう













全日本選手権 東芝/NEC 2011.2.7. 花園にて



全日本選手権準決勝

いいところまで いったのですが.....







元気だしてゆこう

歌手: 河島英五
作詞: 河島英五
作曲: 河島英五

元気だしてゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう

元気だしてゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう

元気だしてゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう

世の中の人は何とでも
何とでも言うが良い
我がする事は我が想いは 我のみぞ知る
武士は喰わねど高楊枝 心は五月晴れ
こせこせするな よくよするな
青空に鯉のぼり

志が少年を
一人前の男にする
志を持ち続ける事で 男は少年に帰る
忍ぶ必路に花が咲く 頑張ってゆこう
めめめするな ういいうするな
夜空に「玉屋」

元気だしてゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう
元気だしてゆこう 声掛け合ってゆこう
サムライでゆこう 日本男児でゆこう



From Kobe 4月 未曾有の大災害 東日本大震災 メディアの報道姿勢に大きな差
毎度ながら TV の報道姿勢に疑問 by Mutsu Nakanishi

東日本大震災・津波・原発事故

被災された みなさまに 心からお見舞い申し上げます

困難な中で 互いに声かけあって 生き抜く力が与えられますよう

一日も早く 救援の手が差し伸べられ、立ち直られますよう

お祈りしています

変えられるものを変える勇氣と

変えられないものを受け容れる心の静けさと

両者を見分ける叡智を

「勇氣」・「冷静」・「知恵」 ニーバーの祈り より

元氣出して 声かけあって

from Kobe より



【 放射能被曝についての正確な情報 風評に惑わされないために 】

福島原発事故について 放射能被曝についての アメリカの専門家の論文スライドを送ってくれました

「福島原発事故の放射能を理解する -物理と工学からの見地」 By Prof. Ben Monreal (UCSB)

<http://online.kitp.ucsb.edu/online/lecture/bmonreal11/>

■ 福島原発事故の放射能を理解する [日本語訳] 日本の専門家による上記論文スライドの日本語訳

<http://buffalonas.com/mutsu/www/2011htm/monreal.pdf>

3月11日 発生した未曾有の東日本大震災・津波・原発事故 被災された みなさまに心から お見舞い申し上げます
かつて 何度も歩き、たたらをきかせてもらった三陸・磐城海岸の被災。遅々と進め救援に気が気ではありません。
一日もはやく 救援の手が差し伸べられ、立ち直られますようお祈りしています。

また、どうしてよいのか判らぬ中、現地で救援・原発の事故の処理に献身的な対応をされているみなさまには
本当に感謝しつつ、安全に作業が進むことをお祈りします。

今 批判的な言動はすまい。言うまい。

みんな一丸となって みんなの力でこの窮状を乗り越えよう。

そうはいいながらも、TV の報道姿勢には毎度ながら 疑問。今回の東日本大震災の報道についても ぶつぶつ。

自分だけかと思っていたら 大震災の報道について 朝日新聞に下記のような記事が掲載された。

私よりは 論理的なものを得た指摘だとも思います。 ご参考まで。

朝日新聞 3.19. 天声人語

天声人語

エミリー・ディキンソンという米国の女性詩人を知る人は少ないかも知れない。19世紀にボストンに近い町で静謐な生涯を送った人で、自然の中で書いた数々の短詩を残した▼次のような無題の詩がある。へ失意の胸へは、だれも踏み入ってはならない／自身が悩み苦しんだという／よほどの特権を持たずしては——(中島嘉郎訳)。これが全文で、新聞記者という仕事柄、胸に深く畳んできた。そして今、未曾有の失意と悲痛に満ちる被災地から、小紙の、あるいは他社の報道が続く▼だれもが苦渋の取材だろう。先の小紙で、阪神大震災を体験した精神科医の中井久夫さんが、被災者には「『わかってたまふか』という気持ちもある」と言っていた。伝える使命と、悲痛な胸に踏み入る躊躇。きびしい葛藤をくぐって来た文であり、写真、映像である▼泣きながら書いた者も、泣きながら撮った者もいよう。NHKのアナウンサーも声を詰まらせては、必死に立ち直ってニュースを読み続ける。そうした報道の数々が、支え合う決意に寄与していると信じてい▼地震から1週間が過ぎ、犠牲者は阪神を超えた。安否不明者は1万9千を数える。被害の全貌はなお分からない。いまだ救援の届かぬ集落を昨日の朝刊が伝えていた。がれきの下から食料を拾って空腹をしのいでいるという▼「誰かがいてくれる」こと、「忘れられない」ことが被災者を励ますと中井さんは言う。また先は見えないが、失意の胸に長く寄り添う報道でありたい。メディアもまた試されているのだと思う。

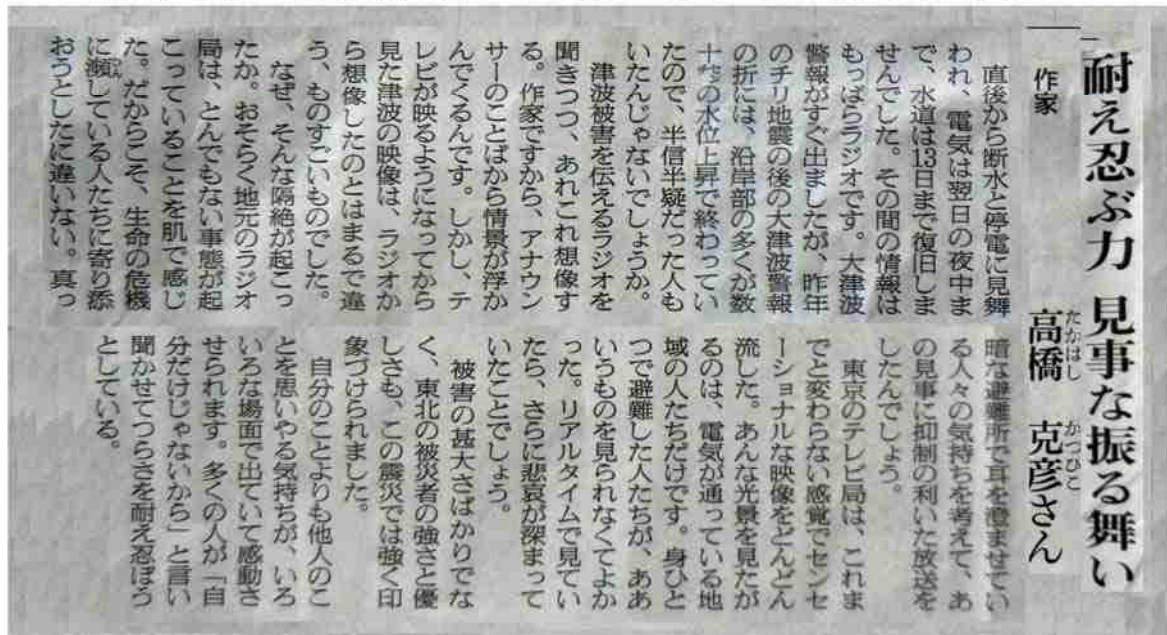
2011.3.19

朝日新聞 3.26. オピニオン紙面 「オピニオン opinion 3.11. 」

作家 高橋克彦さん「3・11」より 途中一部抜き書き転記

朝日新聞 3月26日 オピニオン紙面「3・11」

東北の作家 高橋克彦さんのインタビュー記事 記事より途中抜き書き



朝日新聞 3.26. オピニオン紙面

「オピニオン opinion 3.11. 」

作家 高橋克彦さん「3・11」の記事全文

全文は最後のページに掲載しています



未曾有の大災害 東日本大震災 メディアの報道姿勢に大きな差

毎度ながら TV の報道姿勢に疑問 by Mutsu Nakanishi

このような大惨事が起こるたびにいつも思う TV 報道の姿勢に対する不信心。

前々から TV の報道の行き過ぎ、身勝手な取材が問題になったことが多い。

今回 すべての TV チャンネルが特番を組み、この未曾有の大災害を放送し続けたので、

どこかのチャンネルで 正確な情報が得られるものと期待しましたが、やっぱり裏切られた。

思い上がりというか 報道の姿勢を大きく逸脱し、自分たちが主人公として番組を演出しているのが見える。

この未曾有の大惨事に取材する側にその自覚がなく、

まるで、芸能番組の実況をセンセーショナルに声高に叫ぶ姿勢と同じなのには びっくり。

自分の土俵に映像を引っ張り出し、災害をショウでもあるかのように、センセーショナルな画像を伝える。

自分の演出を被災者に強いるインタビュー。

大事な事象を正確に伝えねばならぬとの意識・姿勢は全く見えず、全体像を報道することさえ忘れ去っている。

チャンネルを幾つ切り替えても 切り替えても同じなのには もうびっくりである。

「一体この人たちは 誰に何を伝えようとしているのか…」と。

この火急の時には TV で情報を得るのは 難しい。TV の姿勢にはついてゆけないこっちがアカンのか…………。

[次頁に続く]

TV をあきらめ、ラジオに切り替えると ラジオは 何が起っているのかを冷静に整理して電波に乗せ、ラジオが「我々の判断に必要な情報を正確に伝えている」「ラジオは信頼できる」。 そう思えるのです。この落差の大きさを今度ほど感じたことはない。

確かに「映像」は事実を伝え、即座に見ている側の判断力を高める大きな力である。 しかし、伝える側がこの映像を逆に使うのは言語道断。 報道する側の視点と姿勢を自覚した番組作りが厳しく問われなければならぬ。

ラジオと共に インターネットの報道とインターネットライブ中継は状況把握に本当にすごい力になると見直しました。何人かの政治家がこれを自分の意を伝えるメディアとして使い、私はこれを馬鹿にしていたましたが、そのリアル性変な脚色なしに事象のみを時系列的にみられる強さ。そして 欲しい正確な情報が手に入る強さは一番かもしれない。

記者会見中継では アナウンサーや解説者のコメントも入らず、最後までライブ中継され、すでに電波に乗せた報道は時系列的に並べられ、いつでも取り出せる状況で整理公開されている。検索すれば 幾つものほしい情報がリアルタイムで手に入る。ほしい情報とはこちらが判断材料にできる事実の整理がベース。これこそが、報道の目指す基本形ではないのかと。

もう一つ TV の原発事故のニュース番組に登場する数々の専門家と称する解説者もひどい玉石混合。

原発事故の現場をよく知っている人は誰なのだろうか… 考えた人選なのだろうか・・・と。

「原発の報道は 専門用語が多くてよく判らん」の声はよく聴いたが、専門家として 解説をしている人がよく知らないのだから当たり前。そして 自分の知る範囲と知らない範囲を区別せず、何でもかんでも言うから余計にわからず、次々とつじつまが合わない。

見ている方は、話の内容で 信用できるかどうか おのずと見えてくるものである。

およそ専門知識があやふや。どう見ても原発の構造がはっきり頭に入っていない。

マンガチックな書面での構造や放射能などの知識ではどうにもならぬ。

問題の対処にはもっと具体的な実践経験と知識 モノづくりでいうノウハウを知っていなければ語れず、ここに 専門性がここに出てくると思うのですが、どうでしょうか??

今 バックグラウンド・背景を理解せず、現場を批判するのは 卑怯であり、間違いである。

プロとしての「誇り」と「使命感」で 未曾有の困難な現実に向き合う現場

数々の批判に対して「自分でやってみろ」「具体的な対応案出せ」「それが言えないなら 黙っとれ」と。

それが 実践現場の本音。 批判に耐えつつ、逃げ場のない直面する問題に取り組んでいる。

現場にいて この声を受け止め、これを踏み越えてゆく強いリーダー それこそが今一番必要な専門家集団。強い現場のリーダーシップと現場での判断能力を高めるフォローが、課題解決の一番の道と思っています。

またまた いらん たわごとです。

被災された人々に活力が与えられ、一日も早く立ち直られることを祈ります。

また、被災地で献身的な活動をされている方々に感謝しつつ、安全を祈ります。

2011.4.5. from Kobe By Mutsu Nakanishi

TV の悪口ばかりだったので、下記のことも付記

震災発生後 2 週間を経て TV の報道も冷静さが見えてきたというか 論調が変わってきています。

悪く言えば ワアワアーの TV 実況中継は内容がなく、いつまでもは続かない。

ネタがなくなって冷静な視点がかえてきたのか??解説する専門家も淘汰されたのでしょうか・・・・・・

映像を自分たちの側に引き寄せるのでなく

映像の事実を冷静な視点で視聴者に伝える姿勢を確立してほしいものである。

From Kobe 2011.5月

共に元気出して 声かけあって

他人任せの「みんなで渡れば 怖くない」ゆるゆるの時代は 「デジタル・IT 万能主義 効率 グローバル 競争 強欲個人主義」の行きづまりの中で 跡形もなく崩れ去り、「はっと振り返ると誰もいない現実」の時代へ
自分には起こりえないと思っていた非現実「明日は我が身」が あれよあれよと次々に現実になってゆく。
対処するすべもなく 仲間もなく もう 茫然とたたずむ。

無駄と言われ、切り捨てられた「モノと仲間」の中に
何と大事なものが多いことか はっと気が付く。
お互いを認め合う一体感と周りへの気配り「縄文帰り 命の絆」を
今一度取り戻そう。

時代の変革点での災害 日本を見直し、
「ひとにやさしい社会」を築くことこの視点だけは
ぶれぬことなく持ち続けたいと思っている。



前に緊急時の情報発信のメディアとしてのテレビの報道姿勢について記したが、最近の原発事故の報道並びにそこに登場する
コメンテーターのひどさは目を覆う。政府の発表もテレビを意識した発表で同類の部類で、情報発信する側にその問題点を考
える姿勢がなく、海外からの指摘も状況を知らない報道と平気で無視するのが、今の日本の現状。
テレビの報道は直接一般の人の目に触れるだけに問題が多い。[テレビとは 民放に限らず、NHKについても……]
とはいえ 見ないわけにもいかぬ。
直感的におかしい 庶民感覚に合わぬと感じた時は やっぱりおかしいのである。
もう 自分で 勉強してゆかねば、流されてしまう時代である。
人の言うことにもろ手を挙げて 追従しては生きてゆけぬ 自分で価値評価・判断する知恵をつけねば……と。

最近 観察していると どうも 次のようなコメンテーターが多い。

1. 専門家・解説者という人が、どんな立場 視点でコメントをしているか 判らない報道が多い。
専門家は立場は狭いが、どんな立場・どんな視点で話しているかを 必ず明らかにしている
2. 結論だけで その根拠を全く話さない。
この場合 伝聞・提供された概論でものをいう。提供された資料に批判的な目を持たぬ最近の体質
3. 状況説明に終始し、自分の意見 今後の見通しを述べぬ
これは 自分が批判にさらされぬ防衛本能

テレビの中の人に流されず、報道を理解判断する時の自分の眼になれば……。

どう思います 1.

今日も「原子炉建屋 冷却モーターのある場所周辺が、1000 ミリシーベルト/時を越えているとの発表があった。
10 分ほど作業したら許容年間放射能値を超える」と淡々と話し、一方で「作業員が間もなく建屋に入って
作業を進める段階になってきた」と。オープンな発表と自慢げな政治家の顔も映っている。
数値慣れしてきて、数値に不感になってきているが、「毎時 1000 ミリシーベルト」には 耳を疑うすごい値。
急性被曝を起こす値で、オーダー的には数時間浴びると「死」に至る致死被曝量値である。
[トータル 5000 シーベルト以上の放射能を浴びた人はその後死に至ると指摘する専門家が多い。]
それを低値被曝の換算だけを報道する。意図的と言わざるを得ないのでは。

なぜなら、その後に建屋作業スケジュールを淡々と述べているのである。」

そんなところへ 作業員を入れるのか…

むしろ 作業環境としては 絶対に止めて、選択・対処法がまず先。 別道の検討を選ばねばならぬはず。

どう思います 2.

また、政府は小学校の校庭での屋外授業を制限しているが、ある自治体では校庭を1日の重機作業で、3cm 削ると放射線量は1/3 以下になり、許容値の中に入ったという。

誰が見ても、校庭の土を削る作業で 汚染土を一か所に集め、制限を取り外す方が理に適っている。

〔裏には「まだ 放射性遺物がまき散らされていて 雨などで さらに放射線量が増える」ことが、隠されているのかも〕

素人目に見ても判る疑問を なぜジャーナリストの記者側の眼にうつらないのか・・・

なぜ問いたださないのだろうか・・・

どうも 映像が思考を退化させている。

明日は我が身 人の身になって考えることがいかに苦手になっていることか……

「人に惑わされぬ眼と心」と「一見無駄に見える余裕」の必要性

「無駄は無駄ならず」「人は機械で替えることはできない」と自戒を込めて

2011. 4. 27. TV 原発報道を見た後で from Kobe by Mutsu Nakanishi

追伸 ご安全に!! の挨拶を交わしながら 鉄鋼の工場見学

いやな ぶつぶつばかりの最近ですが、 先日 かつて勤務した鉄鋼会社の公募での工場見学会の機会を得た。

重厚長大の高度成長の屋台骨を背負ったシームレス高級鋼管工場である。新規量産工場が別に建設され、時代の変化から檜舞台から遠ざかり、老朽設備・リストラの嵐を潜り抜け、今どうなっているのか 工場の今を見てみたいと。

一般応募した人約100名ほどでの見学。

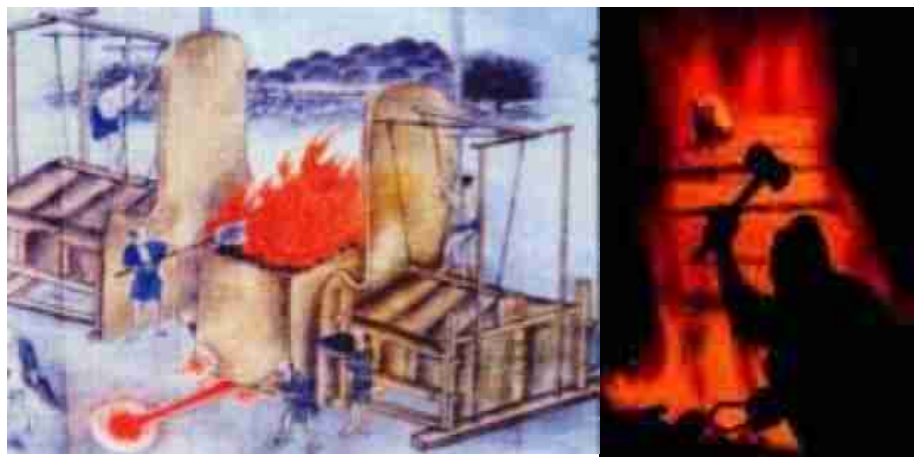
工場内の安全通路を歩きはじめると「ご安全に!!」の声が 道々でかかり、反射的に「ご安全に!!」にと返す。

この「ご安全に!!」は日本の鉄鋼会社の現場で共通の挨拶で 出会うとみんな声を掛け合う。ご安全に!! で 勤務がはじまり、ご安全に!!で一日が終わる。 体がまだ覚えている鉄鋼マン。 同時に仲間の中にはいりこんだとの感慨も。

指先喚呼 JK 自主管理活動 危険予知 現場を支えた数々の集団活動 もう随分かわっただろうなあ・・・と思いつつ、漏れ聞く自動車・情報企業の現場とは違うぞと。 鉄鋼の絆として生きていてほしいなあと。

設備・レイアウトが一新され、綺麗な高級高合金管の専門工場に変身していて若い人も多く、なによりも声高らかに「ご安全に!!」と飛び交うのがうれしかった。

周囲の工場が次々と最新のハイテク工場になっていくのを外から横目で眺めながらどうなっているのか心配していましたが、その変貌と相も変らぬ「ご安全に!!」の挨拶に象徴される鉄鋼マンの伝統が今もいまも生きていると・・・。



図面要約 放射能と向き合う 放射能被曝と健康 朝日新聞の特集記事より



5月11日朝日新聞朝刊 「放射能と向き合う」の特集記事

東日本大震災・原発事故が起こってから、2ヶ月経った5月11日の朝日新聞に「放射能と向き合う」の特集記事が掲載された。やっと 日本のマスコミから みんなが一番知りたかった「放射能被曝」に関する記事が整理されて発信された記事である。海外のインターネットには、発生直後から、専門家によるきっちり整理された記事が広く発信されたのとは比べると日本のメディアを含め、社会の体質がよく判る。

政治家やマスコミは情報公開論がいまだににぎやかであるが、「みんなが知りたがっている情報は何か 何を伝えねばならぬか」については 関心がなく、この視点からの構成やチェックがなされた形跡がない。

「言った 言わない」「隠した 隠さない」が議論の中心で「何が伝えねばならぬ情報なのか」の視点は全く無視されている。これはいわゆるマスコミをにぎわす専門家と称する人たちも全く同じで、「結局信用ならぬ」ということになる。

特に日本社会では「情報・事象・施策」そのものよりも「誰が・・・」が一番大事にされ、それによって回ってきた社会である。

今回この「誰が…」が信用ならぬとなるともうお手上げ。

踊らされぬよう自分の視点を持つておくことが、いかに大事かが思い知らされる。

政治家は今 政争に明け暮れ、TV もまともな議論になっていない。国会中継など質問も回答も全く何をいつているのか 判らない。そのほとんどが 東京がまず第一 れから被災地を付け足すのである。

それも口では「被災地」を唱えながら・・・

- 「津波が来る」との情報で「みんながざわざわ言っている中で、一番先に 山の方へ走り出して逃げた人が一番ありがたかった」と語る人がTVに映っていた。
大事が起こらなければ、「総スカン」を食らう行動とみられるが、
「自分の判断を一番に素早く行動を起こすこと」は我々日本人には一番苦手で一番欠けている行動パターン。
とっさのしかも混乱の中での 行動パターンとして 何が一番大事かの行動か 頭に入れておかねば・・・
- またぞろ マスコミ・政治家とも「あとだしじゃんけん」のコメントのいかに多いことか
「私らは インターネットで知っていたのだが、政府は隠していた」との類である。

知っていたなら、なぜ その場での判断・施策に活かし、論をその時に展開しないのか・
結論が判ってから、コメントを構成して作るのは 卑怯極まりなし。「あとだしじゃんけん」だ。
話が理路整然としているので、昔から多くの局面で行動を起こした人を批判し、時として評価されることが多い。
今回も 政治家やいわゆる専門家と称するコメンテーターにこの種の発言が多く、
聞く方はついつい人・肩書きに騙されてしまう。

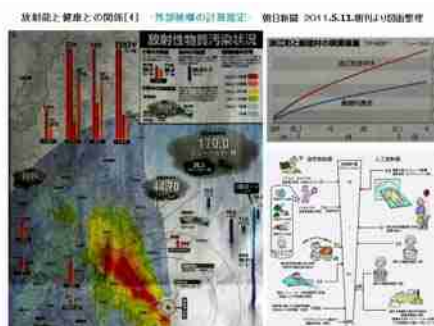
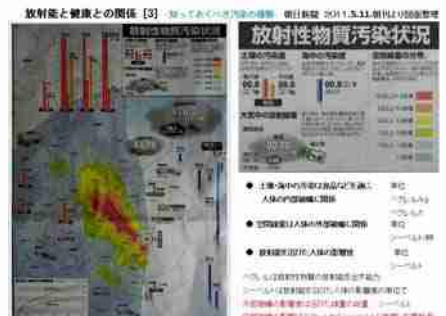
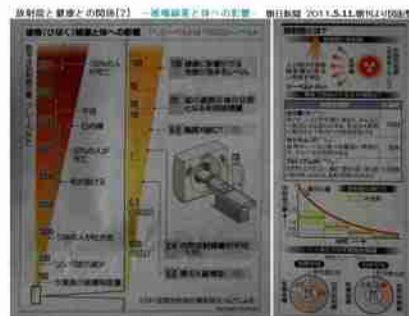
等々数えたらきりなし。

「放射能」の危険評価については いまだに 正確な安全と向きあったコメントが出てこない。
そんな中で、今回の朝日新聞の特集記事「放射能と向き合う」は貴重な記事。
時間がさらに経過し、多くの解説が出出していますが、まだまだ これという解説に行き当たらぬのも事実。
ひとりひとりの疑問・判断に役立てばばと 掲載記事の中から、要旨図面を抜粋してまとめました。

2011.6.5. by Mutsu Nakanishi

朝日新聞記事 放射能と向き合う 図面等要約

この一文の後ろに PDF file で添付しました



● 人体の内部被曝量の計算

ベクレル(Bq)をシーベルト(Sv)に換算
結果は 5μSv、nSv、μSv の3種類で表示

計算式
摂取実効線量 = 放射能濃度(Bq/kg) × 実効線量係数(Sv/Bq) × 摂取量(kg/日) × 摂取日数(日) × 市場希釈係数 × 経理等による減少補正

注: 希釈係数は、食品の希釈率を考慮して算出された値である。市場希釈係数は、市場での希釈率を考慮して算出された値である。経理等による減少補正は、経理等による減少率を考慮して算出された値である。

食品	放射能濃度(Bq/kg)	実効線量係数(Sv/Bq)	摂取量(kg/日)	摂取日数(日)	市場希釈係数	経理等による減少補正
米	100	1.0	0.1	365	1.0	1.0
小麦	100	1.0	0.1	365	1.0	1.0
大豆	100	1.0	0.1	365	1.0	1.0
牛肉	100	1.0	0.1	365	1.0	1.0
豚肉	100	1.0	0.1	365	1.0	1.0
鶏肉	100	1.0	0.1	365	1.0	1.0
魚	100	1.0	0.1	365	1.0	1.0
野菜	100	1.0	0.1	365	1.0	1.0
果物	100	1.0	0.1	365	1.0	1.0
飲料	100	1.0	0.1	365	1.0	1.0

「放射能と向き合う & 放射能と健康との関係」



放射能と健康との関係[1]-知っておくべき用語の解説- 朝日新聞 2011.5.11.朝刊より図面整理



放射性物質

放射線を出す能力(放射能)を持つ物質。原発事故で、住民の健康への影響が問題になることが多いのは、放射性のヨウ素131やセシウム137、ストロンチウム90など。ヨウ素は、体内に入ると甲状腺に集まるが、放射能が半分になるまでの期間「半減期」は8日間と短い。セシウム137やストロンチウム90は半減期が約30年間と長いので、食べものなどを通じて体内に取り込まないよう気をつける必要がある。これらは体内で骨や筋肉の成分などとして蓄積しやすい性質をもっているが、セシウムは100日ほどで排出され半減する。



被曝(ひばく)

放射線を人体に浴びること。体の外から被曝する「外部被曝」と、放射性物質を鼻や口などから吸い込んでしまつて体内から被曝する「内部被曝」がある。内部被曝は、放射性物質を含んだ空気を吸い込むだけでなく、汚染された食べ物や飲み物を口にしたり、皮膚や傷口から入ったりしても起こる。国は、基準を超える放射能で汚染された飲食物が流通しないよう規制しており、現時点では内部被曝に神経質になる必要はない。もともと自然界に存在する放射性物質が飲食物には含まれており、通常でも、体重60kgの人は4千 becquerel程度のカリウム40が体内に取り込まれていると考えられている。



シーベルト

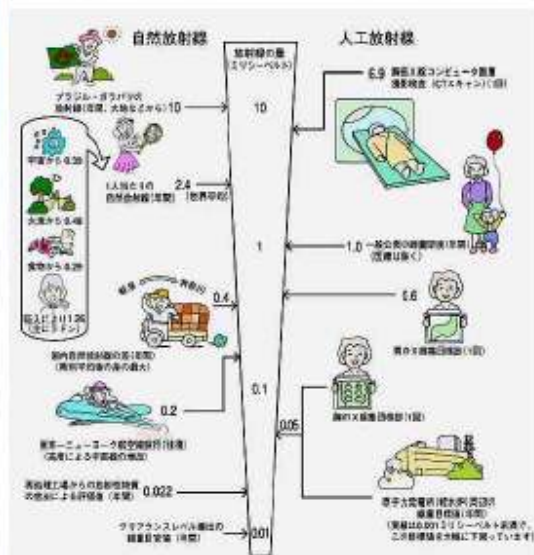
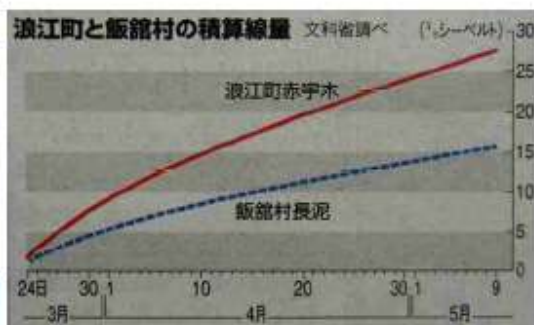
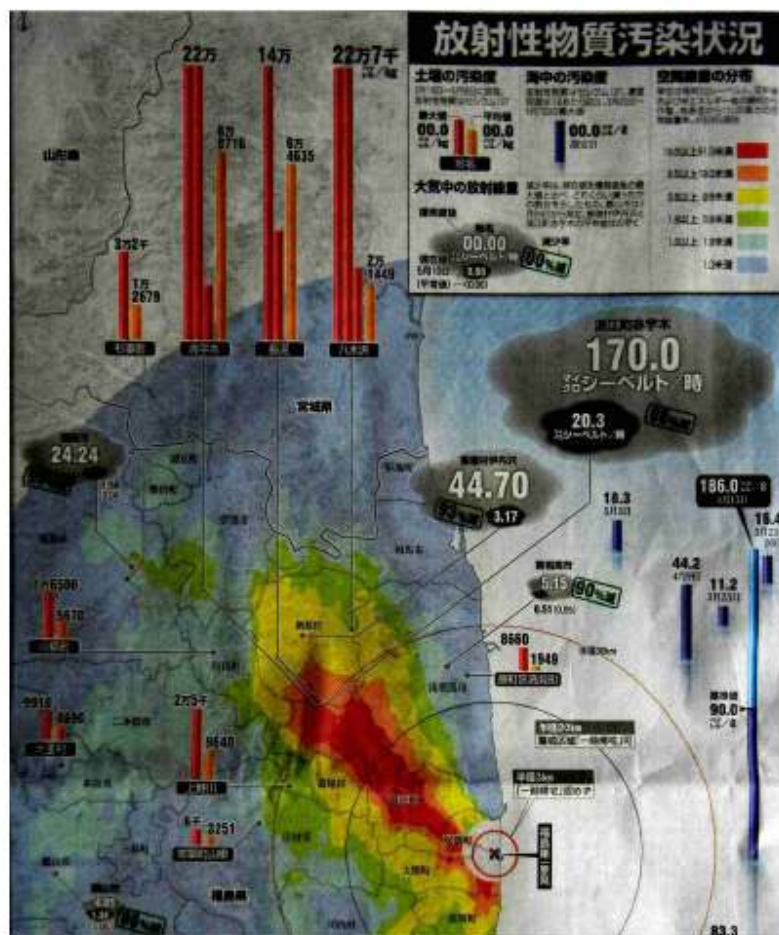
放射線を浴びた時の人体への影響を表す単位。放射線にはいくつもの種類があり、人に対する影響度は違う。それを共通の尺度で測るための単位だ。人は世界平均で、普段の生活でも

年間2.4mSvシーベルトの放射線を浴びている。1時間あたりに直すと0.274μSvシーベルト。業務に従事する人の年間上限は50mSvシーベルトだが、福島第一原発の作業員に限り、250mSvシーベルトに引き上げられた。一度に大量の放射線を浴びた方が体へのダメージは大きく、約500mSvシーベルトでリンパ球が減り、1千mSvシーベルトで吐き気や嘔吐(おうと)の症状が出てくる。



ベクレル

放射性物質が放射線を出す能力、つまり放射能の強さを表す単位。放射性物質の原子核は放射線を出して別の物質に変化していく。この原子核崩壊が1秒間に1個起きるのが、1ベクレル。お金なら硬貨の枚数がベクレルで合計金額がシーベルトに相当する。放射性物質を含む食品を食べたときの体への影響は、放射性物質の種類や体内に入るルートなどで異なってくるため、係数をかけてシーベルトに換算する。水や牛乳の規制値にあたる300ベクレルの放射性ヨウ素が検出されたものを1杯飲むと、人体への影響は6.67μSvシーベルトになる。



◆ 人体の内部被曝値の計算

ベクレル(Bq)をシーベルト(Sv)に換算

結果は Sv、mSv、μSv の3種類で表示

計算式

$$\text{摂取実効線量} = \text{放射能濃度(Bq/kg)} \times \text{実効線量係数(Sv/Bq)} \times \text{摂取量(kg/日)} \times \text{摂取日数(日)} \times \text{市場希釈係数} \times \text{調理等による減少補正}$$

算出された値は摂取実効線量で、50年間(成人の場合)の被ばく量を積算した値。

線量の積算期間は、作業員および成人の一般公衆で50年、子どもでは摂取した年齢から70歳まで。

摂取した放射性物質は時間とともに減少し、減少する早さは放射性物質の種類により異なります。

Iはヨウ素、Csはセシウム、Puはプルトニウム、Srはストロンチウム

核種	半減期	経口摂取 (Sv/Bq)	吸入摂取 (Sv/Bq)
I-129	1570万年	1.1×10^{-7}	3.6×10^{-6}
I-131	8.04日	2.2×10^{-8}	7.4×10^{-6}
I-133	20.8時間	4.3×10^{-9}	1.5×10^{-6}
Cs-134	2.06年	1.9×10^{-8}	2.0×10^{-6}
Cs-136	13.1日	3.0×10^{-9}	2.6×10^{-6}
Cs-137	30.0年	1.3×10^{-8}	3.9×10^{-6}
Pu-238	87.7年	2.3×10^{-7}	1.1×10^{-4}
Pu-239	2.41万年	2.5×10^{-7}	1.2×10^{-4}
Pu-240	6564年	2.5×10^{-7}	-
Sr-89	50.5日	2.6×10^{-9}	7.9×10^{-6}
Sr-90	29.1年	2.6×10^{-9}	1.6×10^{-7}

インターネットより

換算ツールがプログラムされていて

インターネットにあり、簡単に計算できる

例えばホウレンソウ1kgにヨウ素131が2000ベクレル(Bq)あるとする。これを 2000 Bq/kg と表す。

これに放射性核種に対する実効線量係数(左表参照)というものをかけてベクレルをシーベルトに換算する。

ベクレルの値にヨウ素131の実効線量係数(経口摂取の場合) 2.2×10^{-8} をかける。

$2000 \text{ Bq/kg} \times 2.2 \times 10^{-8} \text{ Sv/Bq} = 0.000044 \text{ Sv/kg}$ となる。

Sv/kg は 1kg当たりのシーベルト。

mSv や μSv で表すと以下ようになる。

$0.000044 \text{ Sv/kg} = 0.044 \text{ mSv/kg} = 44 \text{ μSv/kg}$

ベクレルは1秒当たりで定義されている単位ですが、換算されたシーベルト値は体内に取り込んだ放射性物質が体内に存在している間に人体に影響を及ぼすと思われる線量。

線量の積算期間は、作業員および成人の一般公衆で50年、子どもでは摂取した年齢から70歳まで。

摂取した放射性物質は時間とともに減少し、減少する早さは放射性物質の種類により異なります

夏に多い 脱水症・熱中症からの脳梗塞にご用心

高血圧が原因の脳溢血は冬 血管が詰まって起こる脳梗塞は夏に多い

2011年(平成23年)6月25日 土曜日 朝日新聞 大阪版 夕刊より

節電の夏 脳梗塞にご注意

電力不足から節電が求められている今夏。エアコン使用を無理に控えたり、設定温度を高くし過ぎたりすると、脱水症状から脳梗塞(こうそく)になる危険性が高まる。専門家は「特に高齢者は、こまめな水分補給を心がけて」と呼びかけている。

脳卒中の中でも、高血圧が原因の脳出血は冬に増えるが、血管が詰まって起こる脳梗塞は夏場に多い。血液中の水分が減り、どろどろになりやすいためだ。

国立循環器病研究センターによると、過去3年間で脳血管内科に入院した患者は288人。このうち8月は57人で、ふだんの月の約2倍だった。脱水を防ぐため、水を多めに飲み、酒は控えめにする。それつが回らなかったり、体にしびれを感じたりしたら、すぐ検査を受けたほうがいい。横田千晶医師は「体重が1週間で3%も減ったら危険

夏の脳梗塞を防ぐには

- 水分を多めにとる
- 夜のお酒は控えめに
- 冷房を適温にして夏風邪を防ぐ

信号。体力が弱る夏風邪にも注意して」と話す。(東山正宣)

水分多めに ■ 体重減は危険信号

「夏のこむら返り・足がつる」は脱水症・熱中症の予兆???

十分な水と塩分補給を 梅干しと水の補給が一番と !!

最近 朝日新聞に「節電の夏 脳梗塞にご注意」の記事が掲載された。

体力が落ち、体の調整能力・感度の落ちている世代には 注意しないと思ってもよらず、寝ている間に脳卒中の危険があるという。熱中症はしきりに耳にするが、脳卒中についてはあまり知りませんでした。

夏場に足がつったことなどなかったのに、夜寝ていて ちょっと冷えたのだらう足がつったことがあった。

これも 脱水症・熱中症の兆候か……

色々 教えてもらおうと 我々年寄りとは通常聞く一般的な熱中症のメカニズムよりもさらに、

若い人よりも 筋力がおちていること反応感度が落ちていることなどをも もっと考えておかねばならぬという。水分だけではなく情報伝達感度に影響するミネラルを水分と共に十分補っておくことも大事だと。

水分だけでなく ミネラルの多いバナナや梅干しは一番だという。

そんなこと誰も言わないね……………

そういえば 水分補給していたのに熱中症にかかったとか 家の中で汗かいていないのに熱中症 脳梗塞といった話も聞く。

若者以上に 高齢者が一番この節電の影響を受けやすい。

そんなこと常識やないかと言われそうですが、年寄 心せねばと。

適度な運動と十分な水分補給 そして バナナや梅干し食べて お酒はほどほどにしてこの猛暑を乗り切りましょう。

おりしも NHK の番組では 「汗かいた時水分補給はしても 塩分は日本人の場合取る必要はない」とセンセーショナルに報じている。理由は日本人は塩分採りすぎで、不足はせず、逆に塩分取ると高血圧になると。

さあ どっちが正しいのでしょうか。

どうも NHK まで センセーショナルな番組作り。本当にきっちりとした立証と反証チェックした多数論なのか???

もっと しっかり 一般常識覆すなら Data もしくは 論理が必要と思うのですが、問題多いと思います。

【参考 私が勝手にインターネットで調べた論 自己責任でご判断を】

足がつる、こむら返りは、足の筋肉の痙攣（けいれん）で、ふくらはぎ（こむら）に起こることが多いので「こむら返り」という。下肢では、太ももやふくらはぎの筋肉に多い。

原因の多くは脱水症・熱中症など「ミネラル不足による神経系の反射異常と筋肉疲労の相乗による筋肉の異常収縮」。

脱水症の予防 水分補給と同時に塩分などのミネラル分も一緒に補給しておくことが非常に大事

血液のミネラル・塩分濃度が薄められると脳は、水分はもう足りていると勘違いをして喉が渇かなくなって脱水症を引き起こしてしまうこともある。

クーラーの世話になっていると汗をうまくかかず体に熱がこもり熱中症になりやすくなるので要注意。

足がつる原因

私たちは、毎日の食事からビタミン・ミネラルを補給しているが、摂取量が少ないと、筋肉の疲労と相乗して足がつる、こむら返りなど筋肉収縮異常・の危険信号を出す。

**その原因は、代謝産物の異常、水分バランスの異常、血漿電解質濃度の異常、
冬の寒さや夏の暑さなどの過酷な環境条件、神経系の反射異常など。**

運動している人は、特に神経系の反射異常が起こらないようにすることが重要。

1. 筋肉の疲労（激しい運動後など）、十分に準備運動をしていない、
普段使っていない筋肉に急に力を入れる、運動不足、水分不足、水泳などで冷たい水に長く浸かる、
2. マグネシウム・ビタミンEの不足、アルコールの飲みすぎ、嘔吐・下痢・過度な発汗などによる脱水、
妊娠、黄砂などなど

就眠時の特に明け方、水泳などのスポーツや炎天下のゴルフなどで熱中症や脱水症状が原因の一つ。

アルコール類では、水分補給どころかトイレが近くなり脱水症状になってしまいます。

出来ることならば、 筋肉の疲労を避けることも こむら返りの対策の第一

神経の伝導には、電解質(イオン)を使うので、 ミネラルをしっかり補充することが必要

筋肉(腱)の中には筋肉が「伸びている」ことを伝えるセンサーがあり、
このセンサーから脳は「これ以上、筋肉を収縮させるな」という信号を受けています。
筋肉が疲労して、センサーの信号量が減ると、脳は「筋肉を持続的に収縮しろ」という命令を出し、
足がつる」現象をひきおこす。

- 予防の第一は、筋肉を疲労させないこと。筋肉が疲れてきたら、軽いリンパマッサージなどで疲労を取り、センサーも含めた神経を目覚めさせることができる。

そのうえで ミネラル分の補給 脱水症・熱中症の対策を十分撮ることが必要

バナナはカリウムが多い食べ物なので、バナナにアレルギーの無い人は食べておくと補充によい。

From Kobe 2011 年9月

実りの秋が もうついそこまで 暑い夏 家でごろごろ ふと頭をよぎったこと

1. 鉄の歴史に 今の生き方を考える

関東大震災の復興・原発事故の収束の試行錯誤が続く 世界を覆う不景気 政治はあいもかわらぬ荒廃
そんな中で ふっと頭に浮かんで 読み返してみた 鉄のはなし

2. 京都 大文字の送り火騒動 に見た日本の情報社会のほころび



実りの秋が もう ついそこまで 播州平野の山裾で 2011. 8. 24.

From Kobe 2011 年9月[1]

1. 鉄の歴史に 今の生き方を考える

関東大震災の復興・原発事故の収束の試行錯誤が続く 世界を覆う不景気 政治はあいもかわらぬ荒廃
そんな中で ふっと頭に浮かんで 読み返してみた 鉄のはなし

地球に鉄がなければ人類はいきてゆけず、 なにより地球さえも存在しなかったとさえ言われている。

本来 鉄は水に溶けないのですが、本当に極々少量の鉄が海にとける。

このごく微量 水に溶ける鉄がこの地球の歴史ドラマを作ってきたと聞く。

この話はほんとうなのだろうか……

森が沿岸の海・魚を育むとよく言われますが、 これは土中の鉄分と腐葉由来の酸が結びついた有機鉄が水に溶け出した効果
だろう。シベリアの大河からの流氷が、豊かな恵みを与えるのはそのためだと理解される。

また、日本沿岸海域において、海藻群落が消失する磯焼けと呼ばれる現象が生じている。

これも溶存鉄の不足などの要因によると考えられている。

自然界においては森林の腐植土に含まれる腐植物質(フルボ酸、フミン酸)が鉄イオンと結びつき、溶存状態で川から海へと運ばれ、植物性プランクトンはそれを吸収することができ、増殖する。

海水中の鉄濃度の低下は、このフルボ酸鉄・フミン酸鉄の供給量が、護岸工事やダム建設といった人為的な原因で減少することによって生じ、これが海藻群落の消失へとつながると考えられている。

このような 豊かな海の形成に陸上で育まれた「鉄分」が重要な影響をもたらす一方で、最近、海の生態系を研究する専門家の間で「鉄と温暖化」の関係が俄かに注目を浴びています。

- ① 世界の海には植物性プランクトンの栄養分を大量に含みながら、植物性プランクトンの生息が非常に少ない海域がある。
- ② 植物性プランクトンの光合成には鉄分が必須。
- ③ 鉄分の少ない海域に砂鉄などを加えることで、植物性プランクトンが増加。
- ④ 増えた植物性プランクトンが CO₂を消費吸収。
- ⑤ 大気中の CO₂濃度が下がり、気温も下がる。

一説によると、鉄分が不足している海域をうまく活用できれば、年間17億トンの CO₂吸収が期待でき、人類が年間に発生させている全 CO₂の約2割が削減できるとしています。

また、約20年前のアメリカの海洋学者ジョン・マーチン博士の研究によると30万トンの鉄を植物性プランクトンの増殖に100%利用できたら毎年蓄積される二酸化炭素の半分以上に相当する約65億トンを有機物や酸素に変換できる[21t (co₂.t/Fe.kg)]という試算を出しています。 日本の場合、CO₂ 排出量は約12億トン/年であるから約6万トンの鉄が必要となります。

(日本の人口を1億2千万人とする0.5kgFe/人となる。)

ややもすると地球上の生態系の頂点に立つとして 横暴な振る舞いをやってきた我々。

「今 原子力・原発をどうするか……」が大きな課題になっている。

「今 人が制御できない技術である」ということが判った以上 これを使い続けることは許されない。

同時に何度も聞かされてきた体制維持の決まり文句

「電力がたらない。 経済が破壊される。 今の生活が守れない」との声が渦巻いているが、本当だろうか…
人の知恵・歴史がこの「体制維持のむなしさ」と「自分にとってはどうも 別物」であることをことごとく覆してきた。
運命論は好きではありませんが、地球の流れにさおはさせぬ。

さおさすことなく 前を向いて 今の生き方を決めねばならない。

「鉄が大きく育んだ地球 この鉄の恩恵にあづかって

我々は 地球上に住むあらゆる生物との共生の中で生きている。」

このことを忘れることなく 現代を生きることが今 求められている。

関東大震災の復興・原発事故の収束の試行錯誤が続く中

世界を覆う不景気 政治はあいもかわらぬ荒廃

そんな中で ふっと頭に浮かんで 読み返してみた 鉄のはなし

参考 岩波科学ライブラリー 「鉄学 137 億年の宇宙誌」

From Kobe 2011 年9月[2]

2. 京都 大文字の送り火騒動に見た 日本の情報社会のほころび

暑い暑い夏 8月16日 今年も京都五山の送り火を見に行こうと思っていたのですが、陸前高田の被災松から作った薪のセシウム騒動で いっぺんに思いがしぼんでしまいました。

五山の送り火騒動 本当に危ないのか 危なくないのか・・・

つい 500mほど歩いて京大へ行けば、それこそ日本の原子力の学者が多数いる。

聞きに行けば、正しい生の情報がすぐにてにはいるのに・・・

あえて権威・専門家とはいわないが・・・その学者たちはこの騒動をどう見ていたのだろうか・・・

わあわあ騒いだ人たちも、事が終わると 今度は自分たちは被害者だという。
一体どうなっているのか・・・おかしいことだらけである。
情報なんて探せば「右という情報もあれば 左という情報もある」
都合よく 一方の情報ばかり集め、それを情報媒体に乗せれば、簡単に操作ができる時代。
「我々はそれにのせて踊らされているのではないか・・・」。
でも 日本では その中に入って踊っていないと つまはじきにされてしまう。 」
日本の情報社会の危うさのほころびが見える。

日本では情報過多の中で 何が正しいのか 人それぞれがまったく理解も判断もせず、鵜呑みのままで、みんなが引きずられてゆく。 なんて こんな浅い情報鵜呑みの社会になってしまったのか・・・
どんな情報もすぐ手に入り、また それを捨て去るのにも何の抵抗もない時代 学習も判断も必要としない。 IT・IT と叫べば、情報操作の疑いもなく、どこよりも早く広く情報が伝達・入手される。
「ツイッターだ フェイスブックだ」と携帯電話かPC 一つ持てば 情報が好きな時に好きなだけ手に入る時代。
「日本の情報社会は最先端を行っている」とみんな思っている。
でも ふっと立ち止まると・・・あれ、つい先日まで、
「セシュウムは空にまき散らされていない。外国人の日本脱出は大げさ。
風評被害だ。チェルノブイリほどの事故ではない。避難も一時的だ」と言っていたではないか・・・。
「物づくり日本 その技術は世界一と信じ切っていた日本。それが今 欧米諸国のみならず、
韓国・中国そして 東南アジア諸国に負ける構図が頻発である。」

「ツイッター フェイスブック」など本来 個人的なつながりの中で 情報を共有するネットワーク媒体であるのに、意図的にそれを飯のタネにし、人を雇って意図的な情報を流し、意図的な方向を作り出す人たち・メディアがかかる。国・経済界等指導者と言われる人もそれにはまっていると見える。
古い言葉でいう「さくら」の横行。 日本社会の方向までが、この「さくら」情報によって恣意的に動かされている。日本の指導者までもが、それをよしとしているのは どういうことだろうか・・・

「あの人が言うからわたしも・・・と情報判断力を人に頼ってきた日本」
IT・情報の猛烈な過多の中で 人に頼ってはいはどうにもなくなっている。日本の情報社会にほころびがみえる。
「IT 社会」「情報社会」「科学技術」が悪いのではなく、それを使う「人」の方の課題である。
「情報」を見抜くこと 数多くある情報を取捨選択して判断する力が 日本では今本当に衰えている。
情報判断力育成のプログラムと教育に早く取り組まないと 今以上におかしな社会になってしまう。

いま この問題に一番熱心に取り組んでいるのが「コンピュータ」だという。
コンピュータが 数値的なルールが決まっている世界 囲碁・将棋やチェスの名人を打ち破って話題になって久しく、パソコンがすでに名人クラスになっている。ところが、コンピュータは「クイズ」の世界になると全く歯が立たなかった。それが、パソコンが質問の内容を理解し、質問のキーワードを探し、過去のデータ蓄積をから 答えを取捨選択して 答えを見つけるといふ。コンピュータが毎日学習し、今では クイズ番組の名人とそこそこ太刀打ちできるようになっているといふ。
我々は今後 情報分析にとどまらず、毎日の行動の判断を手にした携帯端末・コンピュータに頼らねばならぬのか。
「そのまま信じていいか」と携帯端末に問いかけ、判断してもらうモルモットの時代がくるのだろうか・・・
過多の情報をより分け、正しい情報に至る学習が急務なのは パソコンでなく、われわれではないか・・・と。
そんな 教育プログラムが日本には是非必要だと・・・。

なんか 今年の大文字送り火はむなしく映りましたが、来年はまた、新しい気持ちで大文字の送り火を見たいと

From Kobe 2011. 10 月

明石たこフェリー がなくなって 1 年 はやく再開させてほしいもの

原付バイクが渡れぬ明石海峡 淡路島は原付バイクの孤島

2011. 10. 5. By Mutsu Nakanishi



明石海峡を渡る「たこフェリー」がなくなって 約1年になる。

政治家の気まぐれで行われた高速道路 休日 1000 円の制度が行われて休止に追い込まれたのだ。

9 月の末 淡路島で夜神楽の会がある。 一度見たかった高千穂・出雲の神代神楽がみられるまたとないチャンス
終演は午後 9 時前。 色々調べてみるが、明石海峡を渡る高速バスにまにあわないかも・・・。

淡路に泊まらないと帰れない。 高速道路を車で走らないと淡路は孤島になってしまう。

車に乗らぬ私の足は原付。 神戸の自宅を出て、原付をフェリーに乗せて淡路島に渡って 気楽に淡路島を楽しむのは明石
海峡周辺に住む役得。 休日暇な時の楽しみで、1 時間もあれば 淡路島に渡れる。

昨年も四季折々 そして 弥生の大鍛冶村 五斗長垣内製鉄遺跡へと随分淡路に通いました。

それが フェリーが無くなって、原付が渡るすべがないのです。

車・バイクは高速道路を渡れ、自転車・歩行者はジェノバの高速船に乗せてもらえるのですが、原付はどれもだめ。

(高速道路と言っても 高速無料化は消え 高い料金。高速船やバスの便はフェリーが24 時間 30 分毎に走っていたのと全く違うし、深夜になるとストップである)

「そんなものしあーない」と言われそうであるが、 淡路島と明石側は長らく24 時間運航のフェリーで結ばれ、学校・病院そして会社もみんな簡単に往来できる通勤圏だったのである。

みんな橋が出来るともっと便利に・・・と思ってきたのである。

高速料金は高いし、バスは山の上の高速道路をフリーパスで通過して、バス停のアクセスも良いとは言えない。

良いことは 生活圏ではない四国・大阪・神戸に近くなったことと島を走り抜ける大型トラックが生活道路から消え、安全になったこととこれで、サイクリングを楽しむ若者が増えたことか・・・

あんなに簡単に楽しめた淡路島が遠くなってしまいました。

私には生活圏でないの、楽しみを制限すればよいのですが、淡路の人は困っているだろうなあ・・・と。

ローカルであまりそんな声が聞こえてこないのが不思議で インターネットを見てみると

「淡路島は原付バイクの孤島 明石へ通えない 明石の魚の棚商店街の活気がなくなった」等々困っている様子がいろいろ。

「行政とジェノバが一緒になって この3 月には運行再開」とか「明石大橋を歩行者・自転車通路にする」とかいろいろアドバルーンが上がるのですが、具体的には進まない。

(そういえば 明石海峡は 鉄道を通す2 階建て構造が確保されているはず ???)

フォーキャスト[いまはやりの工程表???] のある具体化された話は聞かれない。このまま自然消滅か...

みんな こんなはずではなかったとの思いがある明石大橋・きまぐれの高速道路無料化。

その後始末はむやむやのまま。弱い立場の人だけが影響を受けている。

原付バイクで買物に出かけるおばちゃんや釣りのおっちゃんは海を渡れない。

タクシー乗って高い料金払える若者とは裏腹に日に日に高齢化は進んでいる。

いきあたりばつたりの政治家の気まぐれで廃止された生活の足 たこフェリー

はよなんとかしてくれ・・・と。

ふっと こんなことが、東日本の被災地でも 東北復興の名を借りて 起こっているでは.....

はやいこと みんな 黙らず 声を上げよう。

私の淡路島 夜神楽は 家内に頭を下げて 車に乗せてもらって行きました。 家から40 分ほど本当に便利でしたが.....

近距離高速の便利さと生活の便利さ どちらも大事 どのように両立させるか.....

誰もがこの便利を使えるよう ぬけのない目配り・気配りが東北の復興へ。 切り捨ては御免である。

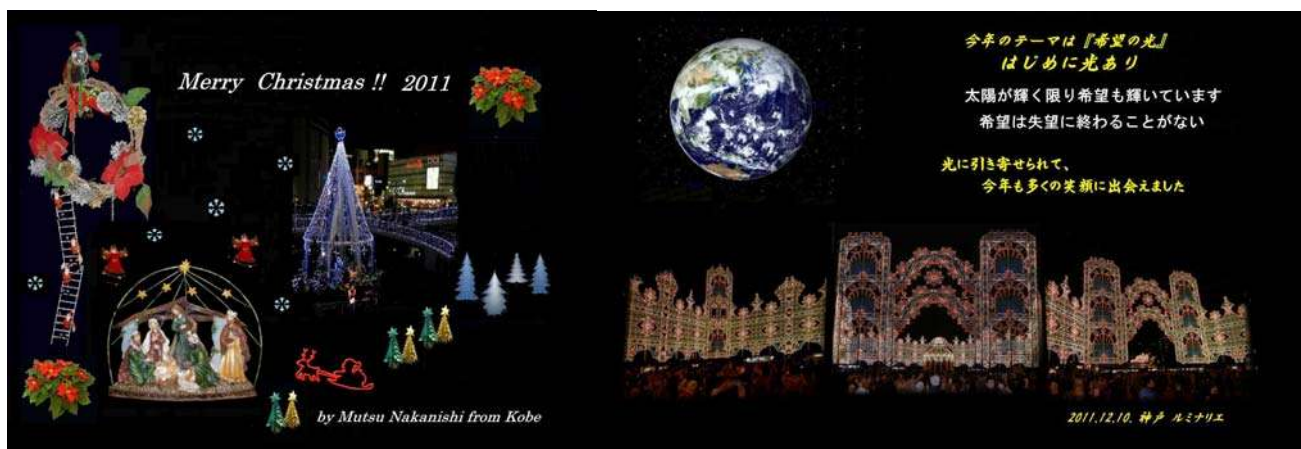
2011.10.5. by Mutsu Nakanishi



From Kobe 2011. 12 月

今できることを精一杯

この一年 「和鉄の道・Iron Road」にお付き合いいただいて本当にありがとうございました。



「 希望の光 負けないで 忘れないで
暖かい希望の輪がつながっていることを
今できることを 精一杯 声かけあい 支えあって 」

「星とたんぽぽ」 金子みすず

青いお空のそこふかく、 海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんでる、 昼のお星はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、 見えぬけれどもあるんだよ。

ちってすがれたたんぽぽの、 かわらのすきにだアまって、
春のくるまでかくれてる、 つよいその根はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、 見えぬけれどもあるんだよ。



一年を振り返ると 本当に大変な一年でしたね

今年は 何と言っても 東日本大震災と原発事故のことが頭から離れぬ一年でした。

一日にして、家族を失い、生活基盤が奪われるということが現実には起きた。

「自分では とても対処出来ないだろう」と自問しつつ、一日も早く自立の道が開けることを願う毎日。

世の中も閉塞感一杯 殺伐とした尋常では考えられぬ犯罪のオンパレード

ど素人集団の「政治主導」のばかばかしさは目を覆うばかり。今年もまた口では「ソフト」と言いながら、「ハード」にしか、手が打てなかった一年。 知恵がない。政治家の知恵の浅さには目を覆うばかりである。

「よその国もみんな同じく苦しんでいる 同じだ・同じ」と言うが、眼をよく凝らしてみると、勝ち組は中国だけではない。

じっと静かだったドイツが、信じられなかったが、このヨーロッパのユーロ不安の中で好景気に沸く。

東南アジア諸国 そして韓国も景気がいい。

国際通貨ドル・ユーロの下落と円高に 日本だけが どこからも助けが得られぬ状態で はけ口にされている
気が付いてみると日本は今も昔よく言われた国際孤児状態
言っていることと違うではないか・・・と。

そんな中 アジアの小国ブータン国王夫妻のさわやかな振る舞いに忘れ物を見たような気がしたのは私だけだろうか・・・
しかもブータン国民はみんな「幸福度 NO.1だ」と言うそうだ。
某ヨーロッパの国は国再建を政治家を排除した内閣に託したという。
政治家を入れると何も進まず、よけい混乱するからだという。

「政治家・中央が右と言えば左に舵を切れ」。まるで、我が家の生活の知恵と同じではないか・・・と
そういう自分にも知恵がない。 閉塞感の中 今出来ることを精一杯 「命こそ宝」沖縄の言葉が頭に響く

世の中が変わる。変えねばならぬ
もう企業中心・東京一極集中の世の中では谷内手行けないのである。
成長神話・国際競争力の戦略では 国際社会に立ち向かえない
はやく強欲資本主義の時代 富が富を吸い上げる時代を打破してほしいものである。

これで 今年のぶつぶつの終りです。

マンネリの日々に もやもやしながらも心地よい同窓会仲間の集まりについつい埋没しがちな日々。
ホームページの更新せねばと思いつつ、根気が続かず。
12月もあと少なくなり、やっと更新出来ました。

今年もこの「和鉄の道・Iron Road」にお付き合いいただいて本当にありがとうございました。
来年も引き続き 御指導 よろしく願います。

また、皆様にとって 新しい年が希望に満ちた明るい年になりますよう

2011.12.15. From Kobe by Mutsu Nakanishi

